古墳周辺の遺跡

古墳群がつくられた頃に営ま れた周辺のムラは、田越川中流 の左岸の丘陵地に集中して見つ かっています。逗子市持田遺跡 からは古墳の副葬品に納められ ることが一般的で、ムラから出 土することは稀な石釧と呼ばれ る腕輪形の石製品が出土してい ます。また、右岸の池子遺跡群 からも、やはり希少な銅製の鏡 や鏃などが出土しています。田 越川に沿って進めば最短で相模 湾と東京湾を往来できることか ら、この地域は物資流通の拠点 であったと考えられます。

古墳群より南側の三浦半島相 模湾沿岸には点々とムラが見つ かっており、海上交通も重要な 役割を果たしたと考えられます。

長柄桜山古墳群が築かれたこ 特田遺跡出土の石釧







の地域は、まさに当時の太平洋岸における物資流通の重要な拠点であったと考え られ、往来する人々が見上げることができた二基の古墳は、ランドマークとして の役割を果たしたことでしょう。

これからの長柄桜山

平成11年3月に地元の考古学愛好家によって第1号墳が発見されたことをきっ かけに現代に蘇った長柄桜山古墳群。逗子市と葉山町では、このかけがえのない 文化遺産を後世に伝え残していくために、平成 14 年 12 月 19 日に国史跡指定を 受けた後、平成 16・17 年度に指定地の公有化、平成 18 年度から平成 21 年度に かけて第1号墳の発掘調査を実施、平成22年度には整備基本計画を策定しました。 現在は、周囲の豊かな自然環境との調和を図りながら、人々が学び、集い、安ら ぎ憩う場として整備するという理念のもと、保存と活用に向けた整備事業を進め ています。第1号墳については、平成26年度から平成32年度までの計画で、墳 丘や埴輪を保護するための盛土や植栽、階段の設置、園路の整備、説明板や案内 板の設置を行っていく予定です。



第1号墳整備イメージ図





第1号墳前方部の整備工事の様子 (27年度



利用案内

- 付近に駐車場はありません。最寄りのトイレは蘆花記念公園内のみです。
- 第1号墳へ
- JR逗子駅前バスのりば4番「葉桜」行 約8分 終点「葉桜」下車。葉桜住宅端ののぼり口まで西へ徒歩約6分 そこから階段路を3~5分(高さ約25m)のぼる。
- ※現在第1号墳は墳丘保護及び整備工事のため、古墳にのぼることはできません。
- 第2号墳へ
- 〇逗子側(2号墳西側)から
- JR逗子駅前バスのりば1番「南郷中学校(海岸回り)」行、3番「葉山(海岸回り)」行 それぞれ約5分、「富士見橋」下車。蘆花公園内ののぼり口まで徒歩約5分 そこから階段路を約10~15分(高さ約90m)のぼる。
- ○葉山側(2号墳南側)から
- JR逗子駅前バスのりば1番「上山口小学校」行、「衣笠」行、「湘南国際村(山手回り)行 JR逗子駅前バスのりば2番「葉山(山回り)」行、「大楠芦名口」行、「横須賀市民病院」行、 「長井」行、「佐島マリーナ」行、「電力研究所」行
- それぞれ約5分、「長柄交差点」下車。桜山トンネル脇ののぼり口まで徒歩約3分 そこから階段路を約10~15分(高さ約90m)のぼる。

問い合せ

逗子市教育委員会教育部社会教育課文化財保護係 〒249-8686 逗子市逗子 5-2-16 TEL 046-873-1111 (代表) 葉山町教育委員会教育部生涯学習課 〒240-0112 三浦郡葉山町堀内 2050-9 TEL 046-876-1111 (代表) 編集•発行:逗子市教育委員会•葉山町教育委員会

発行日: 平成 26 年8月1日

国指定史跡 National Historical Site 長柄桜山古墳 Nagae-Sakurayama Ancient Tumuli



長柄桜山古墳群

長柄桜山古墳群は、平成 11 年(1999 年) 3 月に、逗子市と葉山町の境にある丘陵の上で新たに発見されました。 2 基とも 4 世紀代の前方後円墳で、現存している神奈川県内の古墳では最大級の規模を誇ります。



空から見た長柄桜山古墳群

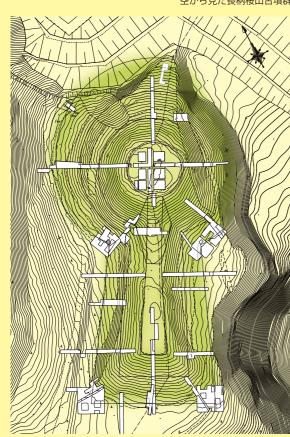
第1号墳

時 期 古墳時代前期後葉 (4 世紀後葉)

主軸方位 N-28°-E 全長 91.3m 後円部径 52.4m 前方部長 38.9m 前方部幅 33.0m くびれ部幅 24.2m 墳頂部比高差 3.4m

葉桜住宅の西端から 25m ほど丘陵を登ったところに ある前方後円墳です。墳丘 は後円部三段、前方部二段 につくられており、後円部 と前方部の比高差(高低差) が大きい前期古墳の特徴を もっています。丘陵の岩盤 を削り出した後、その上に 最大約 1.5mの盛土を施して います。後円部墳丘は左右 非対称で、現在の逗子市街 地が広がる田越川流域や逗 子湾から望むことができる 西側を整った形につくり出 しています。

後円部には埋葬施設を囲うように埴輪が並べられていたほか、埋葬施設陥没坑の脇からは、祭祀に使われた土器が見つかっています。



第1号墳 (1/1000)



整備工事前の第1号



第1号墳後円部墳頂部陥没切

発見された埋葬施設の痕跡 第1号墳の後円部墳頂部の表面

第1号頃の後円部頃頃部の表面では、長さ約7m、幅約1.6mの落ち込みが確認されました。写真中央の黒い部分は地下に納められた木棺が長い歳月を経て腐食して潰れたため、古墳の表面が落ち込んだ痕跡(=陥没坑)です。部分的に掘り下げた結果、陥没坑の真下には粘土槨が存在することを確認しています。



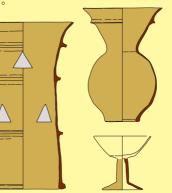
第1号墳くびれ部から出土した埴輪

第1号墳から出土した遺物

第1号墳からは古墳に並べられた埴輪がたくさん出土しています。三角形の透かし乳が開けられた円筒形の埴輪(写真①)と底がない壺形の埴輪(写真②・③)があります。 埋葬施設の脇からは、葬送祭祀に使われた壺や高埖(写真④)などの土器が出土してい



▼第1号墳出土埴輪・土器イメージ図 破片となって出土した左写真の埴輪の 元の形を復元すると、下の図のようにな ります。



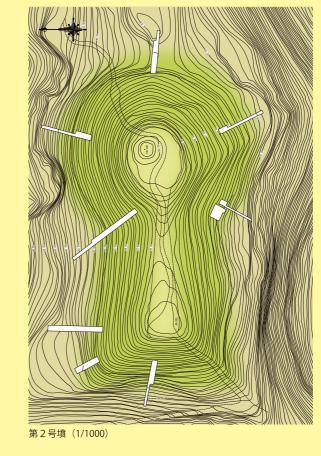
第2号墳

時期 古墳時代前期後葉 (4世紀後葉)

主軸方位 N-88°-E 全長 88m 後円部径 54m 前方部長 34m 前方部幅 45m くびれ部幅 32m 墳頂部比高差 1.89m

第1号墳から尾根筋の遊歩 道を西へ 500mほど向かった ところにある前方後円墳で す。後円部と前方部の比高差 があまりなく、前方部は第1 号墳に比べると幅広となって います。古墳のつくりかたは まだよく分かっていません が、古墳の表面には砂岩や丘 陵岩盤の泥岩を用いた装飾ー 葺石一が施されていることが 明らかになっています。第2 号墳からも円筒埴輪と壺形埴 輪がみつかっており、第1号 墳と同様、墳丘上に立て並べ られたものと考えられます。

前方部から西側には、相模湾に浮かぶ江ノ島をはじめ、 天気が良ければ大山や富士山を一望することができます。



ロケの答う P 技

第 2 号情で確認された夢A

第2号墳で発見された葺石

第 2 号墳の表面には、拳大の 石を貼りつけた、葺石と呼ばれ る装飾をしています。

現在は土で覆われていますが、築造当時は太陽に照らされて白く光って見えたでしょう。

1号墳と2号墳、どちらが最初に 造られたの?

2基の古墳に付けられた番号は、築造順ではなく、発見された順番です。 出土した遺物や古墳の形、立地状況などから築造順序が推測されていますが、決め手がないのが現状です。古墳分布の空白域であった三浦半島の付け根に突如二基の前方後円墳が立て続けにつくられますが、その後この地域で大形の古墳が築かれることはありませんでした。